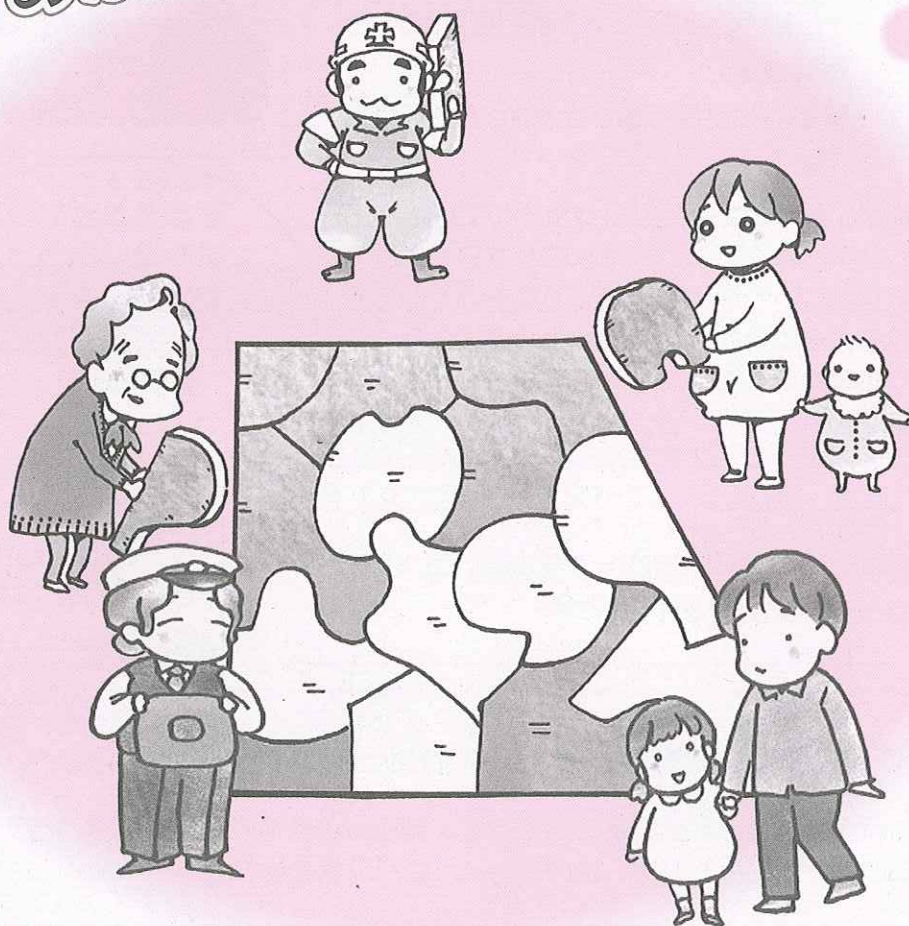


かけはし



発見！！ あなたとわたしの生きやすさ



特集「生きやすさ」について考える

- P2~3 保育事情から考える
- P4~5 外国人から日本をみて考える
- P6~7 ジェンダーから考える

【編集・発行】

彦根市男女共同参画センター「ウィズ」
〒522-0041 彦根市平田町670
TEL/FAX 0749-24-3529
E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

【編集委員】

Jung Dahee 長崎 敏雄 湯浅 友裕

【表紙イラスト】 安岡 麻里絵

2017年2月15日発行

保育事情の変化に触れる



私が彦根市に来て1年半が経ち、魅力を感じる一方で、生活の中で課題の多さを痛感することも度々ありました。その中の一つに、彦根市に待機児童が存在するという事です。私自身が当たり前に保育園に入園していた頃と異なる保育事情に興味を持ちました。そこで託児所で働く方にインタビューする事にしました。



Q 託児所ってどういうところなんですか？
保育園、幼稚園と同じように行事などはありますか？



A 子どもが安全に過ごせる事を見届ける一時保育の場
季節的な地域行事には参加、通年行事は困難

幼稚園、保育園のようなクラス単位ではないこと、通年通われることが稀なことから、集団での行事は難しいです。異年齢児の集まりであることも理由の一つですが、異年齢児が集まるからこそ子ども同士で気遣ったり思いやったりする良い面もありますね。

子どもたちなりに気を遣いあうって相手の事を考えてるって事だから良い環境だね。



Q 年間を通して利用するケースが少ないということはどういうことですか？

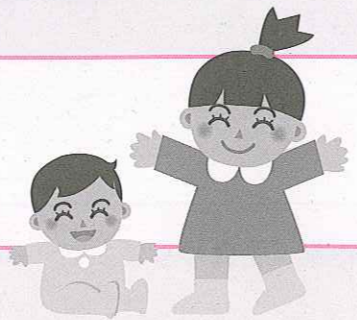
他にも、幼稚園に通園している子どもが夏休みのみ利用したり集団の中に一時的に入れたいなどなど…



A 託児所は保育園に入るまでの一時保育の場として利用されている事というのが現状
保育園の入園には審査があるようです。申込みの時点で働いていないと入園は難しいので待機の間は託児所を利用し始めるというのが現状ですね。



Q 託児所の利用にはルールや決まり事はありますか？



A 特に決まった利用条件はなし
依頼があれば24時間体制をとっている
要望があれば、どんなケースでもお預かりしています。一度事前にルームに説明を聞きに来ていただきます。

待機児童は今後増え続ける？ ～なんで待機になってしまうんだろう？～



Q 彦根市の待機児童はどうやったら減ると思いますか？



A 待機ゼロは難しい
入園希望の児童が増えている
保育時間が短い幼稚園では空きがあることも

保育園の定員が増えれば応募も増え待機も増えるという繰り返いで、イタチごっこなのが現状です。加配制度も考慮され、保育士さんの絶対数が不足しがちのようです。保育園の需要が多いので、保育園の定員を増やすために幼保一体のこども園が増えてきています。



Study 加配制度とは…

先天性の発達障害などを持つ子どもに配慮を加え、生活を支えることを目的に保育士を追加配置できる制度。発達障害等が広く認知されるようになり、需要が増えている。

	待機児童数	待機割合
彦根市	63人	2.4%
滋賀県	339人	1.1%

平成28年4月1日

潜在的な入園希望児童が姿を現してきただね。日本の生活スタイルが変化してるって事かな。待機児童に対する対策は滋賀県全体に比べると、少し遅れているみたい。



～取材を通しての感想～

保護者の方の働き方の変化によって、潜在的な待機児童が増えており、制度がまだ追いついていないということを感じました。

一方彦根市には取材に応じてくれた託児所があり、子育てしながら働く環境作りを担っている気がしました。保育所と連携を強化し、潜在的な待機児童を減らすことで、一層子育てと仕事の両立が図れるような気がしました。




取材協力者 NPO法人 保育サービスドリーム

【外国人からみたジェンダーイークオリティ】※1

私は韓国から交換留学生として彦根に来ました。彦根に住んでいる外国人はどのように日本を見ているのか知りたいと思いました。また、長年日本に住んでいる外国の方たちは日本でどのようなことを体験し感じたのか、外国人からみた日本のジェンダーイークオリティ※1について取材しました。

質問 1 はじめに、日本に来るきっかけはなんですか？
また日本に住んで良かったことや難しかったことはありますか？



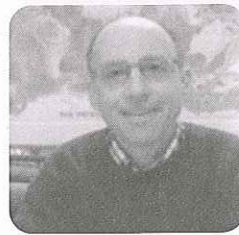
 **デイン・ゴットバンさん**
日本居住: 18年
出身: チュニジア
職業: 教員

滋賀大学でMBA※2をとるために来日しました。日本に住んで良かったことは、安全なところです。難しかったことは言葉が一番のハンディキャップでした。



 **レスリ・アン・タキナミさん**
日本居住: 8年
出身: カナダ
職業: 教員


大学を卒業した時に、カナダは就職状況が良くなかったので日本で教える仕事に就きたいと思い来日しました。日本に住んで良かったことは、すべての人が優しいところです。難しかったことは、仕事とプライベートのバランスです。




 **ジョン・リップピさん**
日本居住: 30年
出身: アメリカ
職業: 教員


若い頃バックパッカーとして多くの国を訪れ、日本にも数週間滞在したことがきっかけです。日本に住んで良かったことは、深い歴史と豊かな自然（特に滋賀）そして、公共交通機関・施設などが便利なところです。難しかったことは、特にありません。

質問 2 日本人とご結婚されているとお聞きしましたが、パートナーや日常生活・職場等でカルチャーショックを感じたことはありますか？


 **デインさん**
パートナーにも、日常生活でもカルチャーショックを感じたことはあります。




 **レスリさん**
私たちは平等な結婚生活をしています。考え方にショックを受けたことはありませんが…。彼から一度も「妻だからこうしなければならない」といった言葉を聞いたことはありません。生活の中では、カナダではATMが24時間利用できますが、日本では利用できるATMが少ないことや、職場では、リーダーシップをとる役割は男性など男女の役割分担に驚きました。また、マタニティーハラスメント※3を経験したのもショックのひとつでした。


 **ジョンさん**
コミュニケーションのスタイルです。文化の違いや男女差かもしれませんが、日本人カップルと変わりません。日常生活や職場では、アメリカは直接的に語る部分があるので、アメリカに比べ日本はオープンに語らないように思います。

質問 3 教育環境についても聞かせてください。日本の教育や子育て環境は良いですか？
また日本で子どもを育てるうえで重要としていることはなんですか？


 **デインさん**
子育ての環境としてはいいと思います。子育てで重要としていることはイスラム教の信仰心を大事にしています。





 **レスリさん**
子育ての環境としては、子どもたちの全体的なサポートを必要としているのに、子育てをしながら働くにはシステムが難しく作られていることなどから、あまり良いとは思えません。日本で重要としていることは、ユニフォーミティー※4です。私の子どもたちには、自分と違うからと排除するのは良くないと教えています。

 **ジョンさん**
子育ての環境としては、家族・友人や地域コミュニティが近くにあるのは良いと思いますが、いじめ問題については良いとは思えません。これは一種の社会現象あり、子どもに限らず大人にも問題があります。またワーキングマザーにとっても厳しい環境だと思います。教育において重要としていることは、正義や優しさなど価値観を大事にすることで「あなたがしたいことをしなさい」と教えています。

質問 4 最後に、みなさんの出身国ではジェンダーイークオリティ政策がありますか？
また職場や地域で男女平等を広めるにはどうすれば良いと思いますか？

 **デインさん**
出身国に政策があるのかあまりよく知りません。広めるには、男の子にも女の子にも同じチャンスを与えることが大切だと思います。

 **レスリさん**
カナダにはたくさん政策があり、もっと厳しく平等に適用されています。広めるには、人を性別で判断するのではなく個性を見るべきだと思います。学校や職場では男女の差をつけず、平等に機会を与えることだと思います。また職場では、昇級や育児休暇などを平等に取得できるようにすると良いと思います。

 **ジョンさん**
アメリカも完全な男女平等ではありませんが、少しずつ進歩していると思います。管理職に女性が少ないのも残念です。日本は教育分野において完全平等ではありません。幼稚園・小学校では男女の差はあまり変わりませんが、成長とともに男女格差は広がります。思想やライフスタイル・伝統を変えることはできませんが、一人ひとりが平等な考え、行動を心掛けることが大切だと思います。

※1 ジェンダーイークオリティ (Gender Equality) …男女平等、性別平等 ※2 MBA …経営管理修士
※3 マタニティーハラスメント …妊産婦に対して行われる嫌がらせを指す言葉 ※4 ユニフォーミティー …同一性、画一化

取材後の感想 今回の取材では、育児やジェンダーイークオリティに関する取材をし、普段聞けない正直な話や色々な考えを聞き、実際に日本で仕事をしながら住んでいる外国人がどう感じているのかが知るきっかけになりました。そして、男女平等を達成するために私もできることを探し小さくても変化を起こしたいと思いました。改めて取材に応じて下さったみなさんに感謝を申し上げます。

☆ジェンダーの視点から考える☆

ジェンダーってなんだろう？

ジェンダーはフェミニズムの運動から生まれた視点で、生物学的な性別(sex)とは違って、「社会的・文化的につくられる性別」、「身体的な特徴ではなく男性または女性として社会で果たす役割の違いによって生まれる性別」のことを言います。



「女(男)だから〇〇しなさい、〇〇するのが当然だ。」という裏側には、性別によって予め役割が決まっているという決めつけが隠されています。女(男)であるとの事実から「〇〇しなければならない」との答えが1個しか導き出せないと考えるのは無理があります。

一見、「男らしさ」「女らしさ」という表現は、事実だけを述べているだけのようにみえますが、実はその裏側に性別役割についての判断が忍び込んでいるのです。

性別による役割は固定的なものでしょうか。何となく決まっているものと思いがちですが、それは、時代や地域、文化によっても様々ではありません。性別による役割は、私たちの手で変えられるのだと考え行動することがとても大切です。

生きづらさとは？

女らしさ、男らしさに縛られ自由な選択ができないと悩む人たち、非正規労働者や障害者、外国籍市民など社会的に弱い立場に置かれていると思われる人たちが、生きづらさを感じているのではないのでしょうか。

では、「女らしさ」、「男らしさ」により感じる生きづらさはどこから来るのでしょうか。

それは、一人ひとりが心の中に描く女性像・男性像と周りから求められる女性像・男性像との間にギャップが生じてしまっているからではないのでしょうか。

ここで大事なことは・・・「問題の原因が差別を受けたり、不公平な扱いを受けている側にあると考えないことです。」例えば、障害者については、障害者が困難に直面するのは「障害がその人にあるから」とするのではなく、「社会こそが『障害(障壁)』をつくっているのだから、それを取り除くのは社会の責務だ」(社会モデル)と考えられるようになってきました。女性・男性であることにより生じる問題も同じように考えることができます。とすると、「差別や不公平な扱いの原因は当事者の側にあるのではなく、当事者を取り巻く社会の仕組みの方にあり、それを変えていくことが課題解決の道だ」ということになります。

フェミニズムとは？

フェミニズムとは、社会の制度や仕組みを支える人たちの意識の中に性別による固定的な決めつけが根強いから、これを変え男女の平等な関係の確立をめざそうとする思想や行動のことです。

フェミニズムには、次のように第1波と第2波フェミニズムの時期に分けることができます。

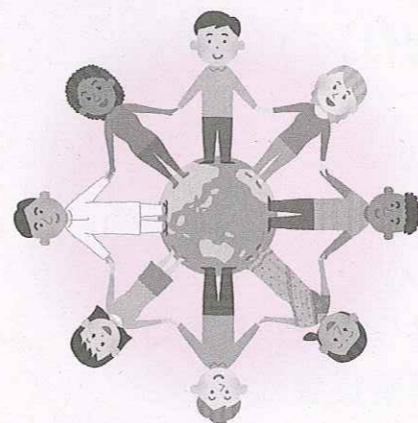
【第1波フェミニズム】→ 19世紀中頃のヨーロッパやアメリカで展開された女性参政権の獲得をめぐる運動で、これがフェミニズムの始まりです。

【第2波フェミニズム】→ 1960年代以降の運動で、第1波フェミニズム運動の後、参政権等法律上の平等が達成されたのに、現実には相変わらず女性たちへの抑圧がなくならなかったのは何故かという疑問から、制度の変革だけでなく、【伝統的な男女観を見直し社会に根付いている男性中心の慣習や、文化そのものを変革しなければだめだ】とする考え方に変わっていきました。

第2波フェミニズムの中からウーマン・リブは生まれました。

※ウーマン・リブとは…女性のために男性と平等な権利を求め、男性と対等の地位や自分自身で職業や生き方を選ぶ自由を獲得しようとする社会運動

最後にジェンダーフリーとは？



ジェンダー・フリーとは、主に教育の場での課題を乗り越えるために提唱されてきた考え方で、子どもたちを「女だから、男だからこうあるべき」という枠組みに押し込めず、それぞれの個性と人権を尊重した教育を行うべきであるという発想から生まれたものです。

決して、一切の「男女の区別」をなくすべきだなどというものではありません。

その目指すところは、【ジェンダーにとらわれない社会の実現】です。

今、私たちにはこういった意味での「ジェンダー・フリー社会」を実現するため、固定的なジェンダー意識にとらわれた社会から自由になることが求められています。

編集後記

「『当たり前』を疑ってみる」、大切だとは分かりながらも、日頃「常識」に寄りかかり暮らしている身には、言うほどに簡単容易なことではありません。ただ、何かちょっとした手がかりでも手にできれば、「本当」を照らす灯は見えてくると思います。

今回の企画は、フェミニズムの歴史を振り返るとともにジェンダーの視点に触れるなかで、それを手がかりに「性別による『らしさ』」の常識を疑い、生きづらさについて考える貴重な機会になりました。

男女共同参画フォーラム

第32回
彦根市

「いま、私たちにできること！」

入場無料

託児有り

手話通訳有

駐車場無料

講師：平田 輝子さん（滋賀県小中学校日本語指導員）

大阪教育大学卒業。小学校教員を12年で退職

1996年から滋賀県小中学校日本語指導員、現在に至る。これまでに、7カ国165人の子どもたちと出会う。

生徒の帰国先に子連れでホームステイ現地の学校に母子登校をこころみる。この経験はその後の指導や子ども観をすっかり変えた。

リーマンショックの時は仲間と『セスタバジカの会』を立上げ、生活支援に取り組む。

彦根市外国籍市民施策懇談会の委員を2期務め、現在は彦根市多文化共生推進プラン策定委員会委員。



日時：2017年 3月 5日（日）
13時20分開演（13時～受付）

13:20 開会式

13:30 オープニング

14:00 講演

会場：ひこね市文化プラザ メッセホール

彦根市野瀬町187-4 TEL0749-26-8601

主催：彦根市男女共同参画フォーラム実行委員会

共催：彦根市男女共同参画センター「ウィズ」

その他のウィズ開催予定講座

●共催事業「ウィズ粋イキ講座」

第1回 ビタミン色の花かご作り

2月17日(金) 9:30~12:00

第2回 桃の節句のお祝い料理

2月24日(金) 9:30~12:00

●ウィズ法律講座「あなたならどうする？老後の財産管理」

2月18日(土) 10:00~12:00

●プロに学ぶ料理教室「イタリアのうちはんPart2」

3月9日(木) 18:00~20:30

●「ウィズ大学講座」第1回「コウジ菌による身近な発酵!!」

3月11日(土) 13:30~16:00

第2回「倍糀味噌を作ろう!!」

3月25日(土) 13:30~16:00

問合せ先 彦根市男女共同参画センター「ウィズ」 TEL&FAX 0749-24-3529

講座詳細は広報ひこねをご覧ください。